

校歌

開校まもなく、校歌早期制作の声があがり、さっそく全職員・生徒より歌詞を募集した。音楽方面でも活躍中の国語科の森井久夫教諭に制作を依頼。昭和50年春「藤井寺高等学校の歌」として誕生。清らかなメロディーと、古き歴史を語る地に本校の発展を願う詩は、職員・生徒に親しまれ長く歌われてきた。創立10周年に「校歌」として制定された。

—作者のことば—

作詞・作曲 森井 久夫

この校歌は大和川の堤防で生まれました。近鉄「国分駅」から大和川に沿って約7km西下したところに藤井寺高校があります。私はこの道を、晴雨にかかわらず、自転車のペダルを踏みながら通いました。南には応神天皇陵をはじめ、巨大古墳の森が次々に姿を見せ私の心を引きました。東には二上山、金剛、葛城の山々が悠然とすわり、帰路を楽しませてくれました。また大和川の四季の移り変わりもすばらしいものでした。春のつくしん坊菜の花の群生、夏の緑と野鳥の歌声、秋の月見草、冬のユリカモメや鴨の飛来、この美しい自然を充分に観賞しながら、私は口笛を吹き、校歌を作りました。万葉集が好きだったので、歌詞は五七調にし、頭に浮かんだ歌詞に勝手なメロディをつけて、あれこれと考えているうちに現在の形のものができ上がりました。したがってこの校歌は頭で作ったのではなく、大和川と御陵を目の前に見ながら自然に浮かんできたものです。

